



さかい利晶の杜

Sakai Plaza of Rikyu and Akiko

関東大震災 100 年

さかい利晶の杜企画展「災害をのりこえる晶子の意志」を開催します

本年は、大正 12（1923）年 9 月 1 日に関東大震災が発生してから 100 年となります。44 歳の与謝野晶子はこの地震による火災で、長年書き溜めた完成寸前の貴重な『源氏物語』の現代語訳原稿を失うという被災体験をしています。しかし、晶子はその強い意志の力で、再び執筆に取り組み、生涯をかけて刊行を成し遂げています。

さかい利晶の杜では、未曾有の災害に直面した晶子が残した言葉に触れ、災害を乗り越える意志と精神を学ぶことで自然災害に対する意識の向上を目的に「災害をのりこえる晶子の意志」を開催します。

1 日時

令和 5 年 5 月 20 日（土）～6 月 11 日（日） 午前 9 時～午後 6 時

2 主催・協力

主催 堺市

協力 与謝野晶子倶楽部

3 場所

さかい利晶の杜企画展示室（堺市堺区宿院町西 2 丁 1-1）

4 観覧料

大人 300 円（240 円）、高校生 200 円（160 円）

※常設展示室（与謝野晶子記念館、千利休茶の湯館）と共通料金

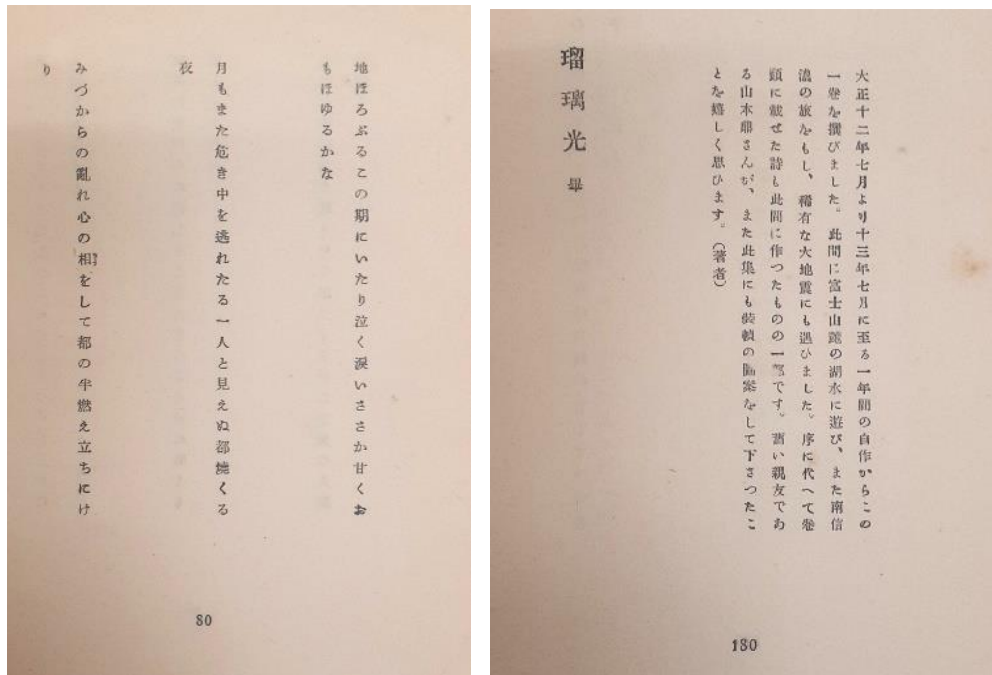
※（ ）内は 10 名以上の割引料金

※中学生以下と堺市内在住の 65 歳以上の方は無料

※障害のある方とその介助者は無料（要証明書）

5 主な展示資料

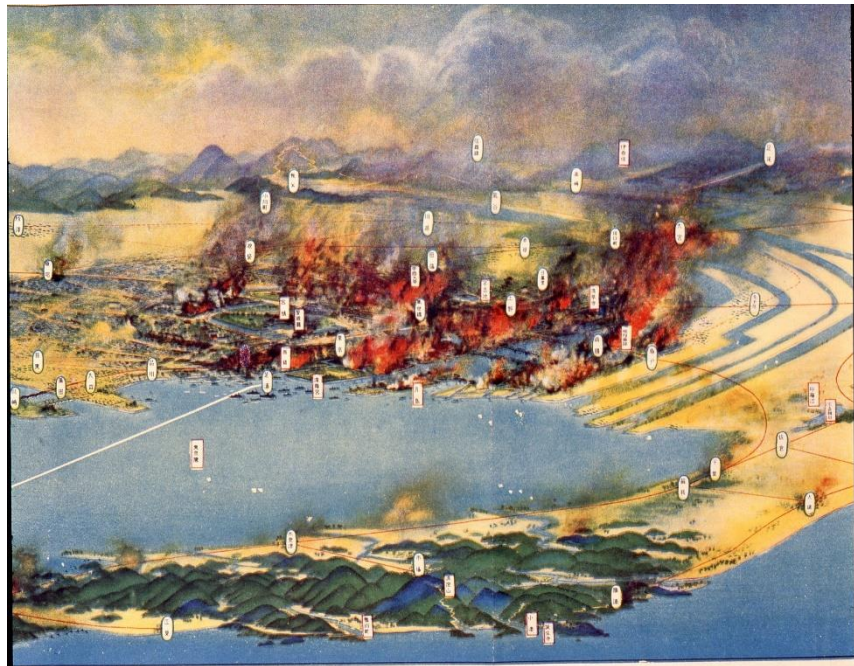
①与謝野晶子自筆短冊（年月日未詳）『歌集瑠璃光』大正 14（1925）年 堺市博物館蔵



左上自筆短冊「月もまた」、右上『歌集瑠璃光』表紙、左下「月もまた」掲載部分、右下『歌集瑠璃光』跋文

関東大震災で被災した与謝野晶子が想いを詠んだ歌「月もまた危うき中を逃れたる一人と見えぬ都焼ける夜」を自筆で記した短冊です。夜空に浮かぶ大震災前と変わらない月を眺め、自分と同じく大震災の猛火から逃れ出たような親近感を持った気持ちを詠んだものです。この歌は、大正 14（1925）年 1 月に発表された『歌集瑠璃光』に他の震災を詠んだ歌と合わせて収録されています。

②吉田初三郎「関東震災全地域鳥瞰図絵」（印刷図・部分） 大正 13（1924）年 9 月（堺市博物館蔵）



大正 12（1923）年 9 月 1 日の関東大震災に伴う大火災の状況をパノラマ地図の名手である吉田初三郎が描いた印刷図です。大震災の約 1 年後に大阪朝日新聞の付録として発行されました。初三郎の作品の中では時事性に富んだものであり、広範囲をわかりやく描くというパノラマの特性を活かした災害資料として貴重です。裏面には「震災後の一年間」と題して、東京・横浜・鎌倉・小田原に関する震災復興の 1 年間のあゆみを具体的な数字をあげてルポルタージュしています。

なお、吉田初三郎は関東大震災で東京銀座の自社を失っています。吉田自身は出張中で無事でしたが、それを機に名古屋鉄道株式会社の招きで拠点を愛知県の犬山へと移しています。

6 関連イベント

学芸員による展示解説を実施します。

日時：6月4日（日）午後2時から（20分程度）

申込：不要、直接会場へ。（企画展示室集合）

参加費：無料（展示観覧券が必要）

※新型コロナウイルス感染症対応のため、予告なく会期や、関連事業などを変更することがあります。詳しくはホームページにてご確認ください。

問
い
合
わ
せ
先

担 当 課：文化観光局 博物館 学芸課（さかい利晶の杜）
電 話：072-260-4862
ファックス：072-238-0150